国際人文学部　国際交流学科

履修の手引と手続き

＜小　目＞

Ⅰ　ディプロマ・ポリシー…… 162
Ⅱ　カリキュラム・ポリシー…… 162
Ⅲ　授業科目について…… 163
Ⅳ　授業科目の単位と認定…… 164
Ⅴ　卒業に必要な単位について…… 164
Ⅵ　進級条件及び各学年における標準的な修得単位…… 165
Ⅶ　授業科目の学年配当と履修すべき単位数…… 166
　1．学科共通科目群…… 166
　2．キャリア形成科目群…… 171
　3．専門基礎科目群…… 172
　4．専門科目群…… 175
Ⅷ　履修申請について…… 181
Ⅸ　正規の履修からはずれる場合…… 181
Ⅹ　試験について…… 182
Ⅺ　授業科目の単位認定と進級及び留年…… 184
Ⅻ　成　績　発　表…… 184

履修の手引きと手続き

Ⅰ　ディプロマ・ポリシー

国際人文学部国際交流学科は，以下に掲げる能力を有し，かつ所定の単位を修得した学生に，学士（国際交流）の学位を授与する。

1．知識・理解

○英語と選択した第二外国語について，その言語と文化，社会を理解している。

○国際的な視野から，日本語と，日本の文化と社会を理解している。

○国際交流を積極的に進め，国際的な場で協働をおこなうための広い視野と教養を身につけている。

2．汎用的技能

○英語と選択した第二外国語を読み，書き，聞き，話すことによって，適切なコミュニケーションをはかることができる。

○日本語を読み，書き，聞き，話す能力を十分に持ち，国内及び国際的な場で日本語によって積極的なコミュニケーションをおこなうことができる。

○国際的な視野を持ち，国際交流を実践できる社会人として必要な基礎的な知識やスキルを身につけている。

3．態度・志向性

○日本語と外国語のいずれによっても，自己を適切に表現し，相手と積極的にコミュニケーションを進めることができる。

○コミュニケーション能力と国際交流に関する知識を備え，かつ社会人として必要な倫理と協調性，リーダーシップをもって行動することができる。

○異なる言語・文化・社会に寛容であり，国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

4．総合的な学習経験と創造的思考力

○コミュニケーション能力と言語・文化・社会に関する広範な教養と専門知識，国際交流の知識とスキルを活用し，課題を発見し，解決をはかる能力を身につけている。

Ⅱ　カリキュラム・ポリシー

国際人文学部国際交流学科では，教育研究上の目的に基づき，国内外の国際的な場で活躍する人材の養成のため，以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

●実践的な英語コミュニケーション能力を4年間通して総合的に習得するために，学科共通科目群Ⅰ（語学）を配置する。優れた英語力を有する学生を対象として，英語力をさらに高めるた

めの特別な科目を置く。

●留学生・指定された帰国生徒等を対象とし，日本語コミュニケーション能力の向上をはかるために，学科共通科目群Ⅰ（語学）を配置する。

●情報化社会で必要な，コンピュータに関する知識とスキルを習得するために，学科共通科目群Ⅱ（情報）を置く。

●グローバル化する文化や社会，コミュニケーションのあり方を多様な切り口から学び，国際社会に生きる人間としての教養を身につけ，人文学を学ぶことの意義を明確にするために，学科共通科目群Ⅲ（教養）を置く。

●大学での学修に必要なスキルと社会人となるための基礎力を身につけ，学生生活を充実させ，キャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現するため，初年次教育・ポートフォリオなどに関するキャリア形成科目群を設置する。

●第二外国語と世界の文化について学ぶために専門基礎科目群Ⅰ（世界の文化と言語）を置く。また，専門基礎科目群Ⅱ（国際教養関連）を配置し，国際社会・国際交流・国際関係・国際協力・国際コミュニケーションなどについて学ぶ専門教育の基礎とする。

●国際社会や国際関係について学び，異文化理解と国際交流，国際協力に必要な知識と実践力を身につけるために専門科目群Ⅰ（国際関係・国際交流）を置く。

●言語や異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学び，英語・日本語とその言語教育に関わる専門的な知識・スキルとコミュニケーション能力を身につけるために，専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）を置く。

●より高度な英語力を実践的に身につけるために，専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）を置く。

●演習および研修・インターンシップを通して，専門的な知識を学び，その実践と発展を図るために専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）を置く。

●教職課程で学ぶ学生のために，専門科目群Ⅴ（教職関連）を配置する。

●多様な学びを実現するために，学科として，教職・学芸員課程，および日本語教員副専攻を奨励する。また，学生が自らの学びを深めるために，自主選択科目枠を設ける。

●学生が学修成果を自覚し，ディプロマ・ポリシーに示す能力の達成度を意識・評価し，自らの成長につなげるために学修アセスメントに関連するプログラムを実施する。

Ⅲ　授業科目について

国際人文学部国際交流学科における授業科目は学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，キャリア形成科目群，専門基礎科目群Ⅰ・Ⅱ，専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴから構成されている。

なお，専門科目群Ⅴは，教職に関する科目群であり，卒業単位には算入されない。ただし，教科教育法は教職課程を履修している者のみが履修することができ，卒業単位に含めることができる。

Ⅳ　授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは，一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり，履修した授業科目に対して，試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで，その単位を認定する制度である。

単位の認定は，Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃの４段階の評価により行い，Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｔ・Ｚの評価は単位を認定しないものとする。なおＮ・Ｈは，単位振替により単位を認定したことを表す。

Ⅴ　卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は，次の表に示すとおりである。

専門科目群Ⅴは卒業に必要な単位には含まれないので，注意すること。

<table>
<tr><td colspan="2">学部・学科
系　　列</td><td colspan="2">国際人文学部　国際交流学科
必　要　単　位　数</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科共通科目群Ⅰ（語学）</td><td colspan="2">22</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科共通科目群Ⅱ（情報）</td><td colspan="2">4</td></tr>
<tr><td colspan="2">学科共通科目群Ⅲ（教養）</td><td colspan="2">4</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャリア形成科目群</td><td colspan="2">8</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門基礎科目群Ⅰ（世界の文化と言語）</td><td colspan="2">10</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門基礎科目群Ⅱ（国際教養関連）</td><td colspan="2">14</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門科目群Ⅰ（国際関係・国際交流）</td><td>8</td><td rowspan="3">46*</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）</td><td>8</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）</td><td>0</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）</td><td colspan="2">8**</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門科目群Ⅴ（教職関連）</td><td colspan="2">なし***</td></tr>
<tr><td colspan="2">自主選択科目。自らの学びを深めるために，上記の科目群（専門科目群Ⅴ（教職関連）を除く）より，それぞれの科目群で指定された単位数とは別に，卒業に必要な単位を10単位以上，修得すること。他学科履修として，国際文化学科の科目をこれに加えてもよい。経営情報学部，メディア学部，福祉総合学部福祉総合学科，観光学部の科目も，科目によってはこれに加えてもよい。</td><td colspan="2">10</td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td colspan="2">126単位</td></tr>
</table>

＊　国際交流学科には「国際関係・国際交流コース」と「国際コミュニケーションコース」の２つのコースがあるが，国際交流学科生としての専門性を高めるために，専門科目群Ⅰより８単位以上，専門科目群Ⅱより８単位以上修得すること。また専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ合計で，46単位以上修得すること。

＊＊　卒業論文を履修しない場合は，４年次に専門科目群Ⅰ～Ⅳより卒業論文に替えて４単位を修得すること。

＊＊＊　教科教育法は教職課程を履修している者のみが履修することができ，卒業単位に含めることができる。

Ⅵ　進級条件及び各学年における標準的な修得単位

１年から２年への進級にあたっては，15単位以上を修得していること。

２年から３年への進級に当たっては，50単位以上を修得していること。

また，「基礎ゼミａ・ｂ・ｃ」及び１年次の必修科目の単位を修得していること。ただし，50単位以上の単位取得がある場合には，これらの科目の未修得単位数が６単位以下の者の進級を認める場合がある。

他に，２年次に長期留学をし，海外留学に伴う単位認定を予定している者の進級は認める場合がある。

３年から４年への進級にあたっては，３年間の学業を遂行し，77単位以上を修得していること。

各学年における科目および修得単位数の目安は，次の表に示すとおりである。

また，各学期の履修登録については30単位までとし，年間の履修登録については原則50単位未満とすること。ただし，大学が教育上適当と認める場合は，履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

科　目　群	必修／選択	１年次	２年次	３年次	４年次	小計	科目群合計	必修科目
学科共通科目群Ⅰ（語学）※※※	必修	6	2			8	28	TOEIC Ⅰ・Ⅱ Basic Writing Skills Intermediate Practical Discussion Skills Intermediate Writing Skills
	選択	8	6	4	2	20		
学科共通科目群Ⅱ（情報）	必修	4				4	4	コンピュータ技能Ⅰ
学科共通科目群Ⅲ（教養）	選択		4			4	4	
キャリア形成科目群	必修	2	1	1		4	8	基礎ゼミａ・ｂ・ｃ 就職キャリア演習ｂ
	選択	2		2		4		
専門基礎科目群Ⅰ（世界の文化と言語）	選択	4	4	2		10	10	
専門基礎科目群Ⅱ（国際教養関連）	必修		4			4	14	政治学入門 経済学入門
	選択	4	2	4		10		
専門科目群Ⅰ（国際関係・国際交流）	選択	4	6	6	4	20	20	
専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）	選択	4	6	6	4	20	20	
専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）	選択		2	4	2	8	8	
専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）	必修			2	2	4	10	国際交流演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
	選択	2			4	6		
専門科目群Ⅴ（教職関連）								
学年別修得単位数　計		40	37	31	18	126	126	

※学科共通科目群Ⅰにおいて，Fundametals of EnglishⅠ・Ⅱ，Oral FluencyⅠ・Ⅱ・Ⅲ，Intermediate Writing Skills，English for Advanced Studies ａ・ｂ・ｃ，English for Specific Purpose ａ・ｂ・ｃ，から指定されたクラスを６科目12単位以上選択必修

※※学科共通科目群Ⅰにおいて，外国人留学生は日本語科目16単位を含み22単位を選択必修

Ⅶ　授業科目の学年配当と履修すべき単位数

〔留意事項〕

⑴「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で表示された科目は，数字の順序に従って履修するものとする。「IA・IB」は原則として，IA を先に履修すること。

⑵「ａ・ｂ」はどちらを先に履修してもよい。また，どちらか一方のみの履修も可とする。

⑶　ただし，実際の履修については，シラバスに記された各科目の履修要件をよく読み確認すること。

⑷　単位数を○で囲んだ科目は，必修を示す。

⑸　本学は春学期・秋学期の二学期制をとっている。大多数の科目は，どちらかの学期に開講される。ただし，一部に一年間（春学期・秋学期）を通して履修する通年科目がある。また，夏期と冬期には集中講義期間があり，集中講義期間には数日間同じ科目の授業が実施される。さらに，研修・インターンシップ等は，学期の枠と関係なく実施される場合もある。

⑹　全ての授業科目は，年度初めに履修登録を行う。

⑺　原則として上位学年の者は，下位学年に配当されている科目を履修できる。たとえば１年次の枠のみに指定されている科目でも，２年次以上になってから履修できる。但し，授業内容は学年が進むほど専門性が高くなるように設定してあるので，それぞれの学年の枠で履修することが望ましい。

⑻　履修を指定された必修科目が自分の取りたい必修以外の科目と重複した場合には，必修科目の履修を優先すること。

⑼　クラスＡ・クラスＢといったクラス分けは，履修指導の一環として設けられているクラスである。クラス指定は，履修者数が偏らないように必修科目などで設定されていることが多い。クラスの指定がある科目は，それぞれ指定されたクラスで履修すること。

⑽　語学・演習・実習科目においては，原則として週１回の授業につき一学期（15週）で１単位を付与する（たとえば，２単位の語学科目の場合，週２回同じ科目の授業がある）。

⑾　講義系の科目においては，原則として週１回の授業につき一学期（15週）で２単位を付与する（たとえば，２単位の講義科目の場合，週１回授業がある。４単位の講義科目の場合は週２回授業がある）。

１．学科共通科目群

学科共通科目群は，学科共通科目群Ⅰ（語学），学科共通科目群Ⅱ（情報），学科共通科目群Ⅲ（教養）の３科目群に分かれている。それらの各科目群の中から「Ⅴ卒業に必要な単位について」で示された所定の単位を修得しなければならない。

⑴　学科共通科目群Ⅰ（語学）

実践的な英語コミュニケーション能力を4年間通して総合的に習得することを目的として

いる。国際交流学科の特徴の一つは充実した英語教育であり，「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的に身につけることを重視している。そのため，１年次には４科目６単位を，２年次には１科目２単位を必修としている。また，「Fundmentals of English Ⅰ」から「English for Specific Purpose c」までの科目は選択科目であるが，１・２年次に６科目12単位修得すること。

英語の必修科目ならびに，１・２年次の選択科目では，原則として能力別のクラス分けがなされている。履修するクラスは，年度末（新入生は年度当初）の英語能力テスト（プレイスメント・テスト）によって決定される。このテストを必ず受け，指定されたクラスを履修しなければならない。個人の都合で指定されたクラスを勝手に変更することはできない。

留学生と指定された帰国生徒等は，日本語コミュニケーション能力の向上を図るために，１年次と２年次に４科目８単位ずつを履修し，４年間で22単位履修する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		１年	２年	３年	４年		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	TOEIC Ⅰ	①				22単位	必修８単位およびFundamentals of English Ⅰから English for Specific Purposes c までの12科目より６科目を選択し修得すること。他にすべての英語科目より２単位を修得し，合計で22単位を修得すること。
	TOEIC Ⅱ	①					
	Basic Writing Skills	②					
	Intermediate Practical Discussion Skills	②					
	Intermediate Writing Skills		②				
	Fundamentals of English Ⅰ	2					
	Oral Fluency Ⅰ	2					
	Fundamentals of English Ⅱ	2					
	Oral Fluency Ⅱ	2					
	Intermediate Reading Skills		2				
	Oral Fluency Ⅲ		2				
	English for Advanced Studies a	2					English for Advanced Studies a から English for Specific Purposes c までの６科目は優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。
	English for Specific Purposes a	2					
	English for Advanced Studies b	2					
	English for Specific Purposes b	2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	English for Advanced Studies c		2				
	English for Specific Purposes c		2				
	TOEIC: Vocabulary Ⅰ	2					
	TOEIC: Grammar & Listening Ⅰ	2					
	TOEIC: Vocabulary Ⅱ		2				
	TOEIC: Grammar & Listening Ⅱ		2				
	Advanced Practical Discussion Skills			2			
	Advanced Reading Skills			2			
	Oral Fluency Ⅳ			2			
	Business English Writing			2			
	Spoken Business English			2			
	English Pronunciation	2					
	日本語中上級 a（総合）	2					留学生・指定された帰国生徒対象 日本語科目16単位を含み22単位を選択必修 （但し，日本語力が充分な水準に達していると判断される学生は，必修22単位のうち8単位分まで「学科共通科目群Ⅰ」の日本語以外の科目で習得することができる。）
	日本語中上級 b（受容）	2					
	日本語中上級 c（口頭産出）	2					
	日本語中上級 d（筆記産出）	2					
	日本語中上級 e（言語知識）	2					
	日本語中上級 f（聴解）	2					
	日本語中上級 g（読解）	2					
	日本語上級 a（総合）	2					
	日本語上級 b（映像作品の日本語）	2					
	日本語上級 c（現代文章を読む）	2					
	日本語上級 d（口頭発表）	2					
	日本語上級 e（論文作成）	2					
	ビジネス日本語Ⅰ	2					
	ビジネス日本語Ⅱ	2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	日本語プロジェクト学習 a	2					
	日本語プロジェクト学習 b	2					
	Basic Japanese a	4					指定された交換留学生・短期留学生を対象とする。
	Basic Japanese b	4					
	Basic Japanese c	4					
	Basic Japanese d	4					
	Japanese Language Proficiency Test a (Knowledge)	2					
	Japanese Language Proficiency Test b (Comprehension)	2					
	Intermediate Japanese a	4					
	Intermediate Japanese b	4					
	Japanese Project a	2					
	Japanese Project b	2					

〔備考〕

(1) 学科共通科目群Ⅰでは，第一外国語として英語（外国人留学生・指定された帰国生徒等は日本語）を学ぶ。単位数を○で囲んである科目は必修科目である。

(2) Fundamentals of English Ⅱ，Oral Fluency Ⅱ，TOEIC Ⅱを履修するためには，履修前提条件として，それぞれのⅠを修得していなければならない。Oral Fluency Ⅲ，Ⅳも同様に，同Ⅱ，同Ⅲを修得していなければならない。

(3) 日本語は，日本語能力試験の合格レベルに応じた科目（N2，N1）を選択すること。

(4) 日本語力がN2相当の水準に達していない場合は，語学教育センターが指定する日本語クラスを履修すること。

⑵　学科共通科目群Ⅱ（情報）

情報化社会で必要な，パソコンやインターネットなどに関する知識とスキルを習得する科目を配置している。１年次には「コンピュータ技能Ⅰ」を必修として学ぶ。これと合わせてマイクロソフトの技能資格を取得することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		１年	２年	３年	４年		
学科共通科目群Ⅱ（情報）	情報メディア論	2				４単位	必修２単位を含み４単位を選択必修
	コンピュータ技能Ⅰ	②					
	コンピュータ技能Ⅱ		2				

⑶　学科共通科目群Ⅲ（教養）

グローバル化する文化や社会，コミュニケーションのありかたを多様な切り口から学び，国際社会に生きる人間としての教養を身につけ，人文学を学ぶことの意義を明確にするための科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		１年	２年	３年	４年		
学科共通科目群Ⅲ（教養）	ジェンダー論	2				４単位	２科目４単位を選択必修
	歴史・文化の視点	2					
	異文化理解	2					
	コミュニケーションの基礎	2					
	世界の中の日本	2					
	ビジネス入門	2					

2．キャリア形成科目群

学生生活を充実させ，キャリア形成や生涯教育に資する主体的・自律的な学びを実現していくための科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
キャリア形成科目群	基礎ゼミ a	①				8単位	必修4単位を含み8単位選択必修
	基礎ゼミ b	①					
	基礎ゼミ c		①				
	就職キャリア演習 a			1			
	就職キャリア演習 b			①			
	留学プランニング	2					
	航空・空港キャリア概論 a	2					
	航空・空港キャリア概論 b	2					
	航空・空港キャリア実習	2					
	旅行・ホテル・観光キャリア概論	2					
	生涯スポーツ概論	2					

3．専門基礎科目群

⑴　専門基礎科目群Ⅰ（世界の文化と言語）

グローバル化の進んだ社会に適応するため，第二外国語と世界の文化について学ぶ科目群である。英語以外（留学生は日本語以外）の言語を第二外国語として学び，同一言語の初級２科目４単位を必ず履修しなければならない。グローバル化が進み，英語プラスもう一ヶ国語の外国語の能力が求められるようになっている。第二外国語もぜひマスターしてほしい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群Ⅰ（世界の文化と言語）	文化人類学		2			10単位	第二外国語一か国語４単位（同一第二外国語のⅠA，ⅠB）を含み，10単位以上選択必修 ※外国人留学生は，第二外国語一か国語に替えて，「学科共通科目群Ⅰ(語学)」より２科目４単位を選択可能
	宗教学概論		2				
	外国史概説		2				
	地理学a		2				
	地理学b		2				
	地誌			2			
	倫理学概論		2				
	比較文化概論	2					
	日本地理	2					
	アメリカ文学概論	2					
	近代イギリス文学		2				
	ドイツ語ⅠA	2					
	ドイツ語ⅠB	2					
	ドイツ語Ⅱ	2					
	ドイツ語Ⅲ		2				
	ドイツ語Ⅳ			2			
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語Ⅱ	2					
	フランス語Ⅲ		2				
	フランス語Ⅳ			2			
	スペイン語ⅠA	2					
	スペイン語ⅠB	2					
	スペイン語Ⅱ	2					
	スペイン語Ⅲ		2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群Ⅰ（世界の文化と言語）	中国語ⅠA	2					
	中国語ⅠB	2					
	中国語Ⅱ		2				
	中国語Ⅲ		2				
	中国語Ⅳ			2			
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語Ⅱ		2				
	韓国語Ⅲ		2				
	韓国語Ⅳ			2			
	ハンガリー語ⅠA	2					
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語Ⅱ	2					
	ハンガリー語Ⅲ		2				
	ハンガリー語Ⅳ		2				
	ハンガリー文化研究a	2					
	ハンガリー文化研究b	2					
	ポーランド語ⅠA	2					
	ポーランド語ⅠB	2					
	ポーランド語Ⅱ	2					
	ポーランド語Ⅲ		2				
	チェコ語ⅠA	2					
	チェコ語ⅠB	2					
	チェコ語Ⅱ	2					
	チェコ語Ⅲ		2				

〔備考〕
(1)　第二外国語において，ⅠBを履修するには，ⅠAを修得していなければならない。
(2)　ⅠAは春学期，ⅠBは秋学期に配当している。外国語の学習においては継続性が重要であるので，一年間（春学期・秋学期）を通して履修することが望ましい。ⅠA，ⅠBを修得し，さらに上のレベルの語学力を身につけたい学生はⅡ（外国語によってはさらにⅢ・Ⅳ）を履修すること。また第二外国語を習得した上で，それぞれの言語圏の大学にも積極的に留学してほしい。

⑵　専門基礎科目群Ⅱ（国際教養関連）

基礎的な国際教養を身につけるための科目群であり，国際社会・国際交流・国際協力・国際関係・国際コミュニケーションなどについて学ぶ専門教育の基礎となる科目を配置している。なかでも「政治学入門」「経済学入門」は必修科目である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群Ⅱ（国際教養関連）	国際日本学	2				14単位	必修4単位を含み14単位以上選択必修
	政治学入門		②				
	経済学入門		②				
	社会学入門	2					
	日本国憲法	2					
	中欧の社会と文化	2					
	スポーツ科学Ⅰa	1					
	スポーツ科学Ⅰb	1					
	法律学概論		2				
	経済原論a		2				
	経済原論b		2				
	日本の歴史a	2					
	日本の歴史b	2					
	国際ボランティア論	2					

4．専門科目群

国際交流学科の専門科目は５科目群に分かれている。うち「専門科目群Ⅰ（国際関係・国際交流）」と「専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）」は，「国際関係・国際交流コース」と「国際コミュニケーションコース」の２つのコースにそれぞれ対応する科目群である。しかし，どちらのコースを選択するかに関わらず，国際交流学科生としての専門性を高めるために，専門科目群Ⅰより８単位以上，専門科目群Ⅱより８単位以上修得する必要がある。正式にどちらのコースに所属するかは演習教員が決まってからの３年次に確定するが，どのコースを選択するかについては，１年次から意識しながら計画的に履修し，系統立てて学習することが必要である。また，「専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）」と合わせて，専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ合計で，46単位以上修得することが必要である。さらに「専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）」と「専門科目群Ⅴ（教職関連）」がある。

⑴　専門科目群Ⅰ（国際関係・国際交流）

国際社会や国際関係について学び，異文化理解と国際交流，国際協力に必要な知識と実践力を身につけるための科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		１年	２年	３年	４年		
専門科目群Ⅰ（国際関係・国際交流）	国際交流論	2				専門科目群Ⅰ～Ⅲ合計で46単位	専門科目群Ⅰより８単位以上選択必修
	国際協力論	2					
	国際交流・協力実践	2					
	日本と北米	2					
	日本と中南米	2					
	日本とヨーロッパ	2					
	日本とアジア	2					
	アジアの女性論	2					
	国際機構論			2			
	国際開発論			4			
	国際関係論			4			
	アジア国際関係論			4			
	アメリカ対外関係論			4			
	中欧地域文化研究			2			
	中欧地域社会研究			2			
	開発と女性			4			

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ（国際関係・国際交流）	文化交流史a（日本：アジア）		2				
	文化交流史b（日本：欧米）		2				
	日本文化論	2					
	西洋美術	2					
	文化遺産		2				
	国際法			4			
	国際経済学			2			
	NGO・NPO 入門		2				

(2) 専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）

言語や異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学び，日英の翻訳・通訳及び言語教育に関わる専門的な知識とスキルと，ビジネスに必要なコミュニケーション能力を身につける科目を配置している。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）	言語学概論	2				専門科目群Ⅰ～Ⅲ合計で46単位	専門科目群Ⅱより8単位以上選択必修
	英語学概論a	2					
	英語学概論b	2					
	社会言語学		2				
	言語学			2			
	言語・非言語コミュニケーション論		2				
	第二言語習得論		2				
	国際コミュニケーション入門	2					
	異文化間コミュニケーション論		2				
	異文化適応論		2				
	翻訳の基礎（英日）			2			
	観光通訳（英日）			2			
	児童英語教授法Ⅰ		2				
	児童英語教授法Ⅱ		2				

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）	英米児童文学 a		2				
	英米児童文学 b			2			
	発達心理学		2				
	日本語学概論 a	2					
	日本語学概論 b	2					
	日本語の音声		2				
	日本語の語彙・意味	2					
	日本語の文法 a	2					
	日本語の文法 b	2					
	日本語教授法 a（教授法）		2				
	日本語教授法 b（コースデザイン・評価）		2				
	日本語教授法 c（教材・教具）		2				
	日本語教育事情			2			
	日本語教育実習			4			
	International Communication		2				
	Language Acquisition		2				
	Multimedia Production		2				
	Images of Japan：Literature and Film			2			
	Variable Topics in Culture and Society in Japan			2			
	Selected Topics in Japanese Manga and Animation			2			

〔備考〕
「児童英語教授法Ⅰ」から「発達心理学」までの５科目は，児童英語指導員養成課程の科目である。

(3) 専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）

より高度な英語力を実践的に身につけるための科目群である。英語で学び，英語で発信するスキルを身につけ，英語でのコミュニケーション能力向上をはかる。

<table>
<tr><th rowspan="2">系列</th><th rowspan="2">授業科目</th><th colspan="4">年次および単位数</th><th rowspan="2">最低修得単位数</th><th rowspan="2">備考</th></tr>
<tr><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th></tr>
<tr><td rowspan="10">専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）</td><td>Intensive Weekend English</td><td colspan="2">4</td><td></td><td></td><td rowspan="10">専門科目群Ⅰ～Ⅲ合計で46単位選択必修</td><td rowspan="10"></td></tr>
<tr><td>English Project Education: Newspaper Writing Ⅰ</td><td></td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>English Project Education: Newspaper Writing Ⅱ</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>Mentor Program Ⅰ</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>Mentor Program Ⅱ</td><td></td><td></td><td></td><td>2</td></tr>
<tr><td>English Teaching Methodology Ⅰ</td><td></td><td colspan="2">2</td><td></td></tr>
<tr><td>English Teaching Methodology Ⅱ</td><td></td><td></td><td colspan="2">2</td></tr>
<tr><td>Oral English for Children a</td><td></td><td colspan="2">2</td><td></td></tr>
<tr><td>Oral English for Children b</td><td></td><td></td><td colspan="2">2</td></tr>
<tr><td>Presentation Skills</td><td></td><td></td><td colspan="2">2</td></tr>
</table>

〔備考〕

「English Teaching Methodology Ⅰ」から「Oral English for Children b」までの4科目は，児童英語指導員養成課程の科目である。

⑷　専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）

この科目群では専門的な知識を学んで，その実践と発展を図る。

国際交流演習Ⅰ～Ⅳの４単位が必修である。3・4年次には，全員がいずれかの演習に所属して，綿密な少人数教育を受ける。他に，研修・インターンシップ科目，卒業論文を履修することもできる。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅳ（ゼミ研修・実践）	国際交流演習Ⅰ			①		8単位	必修4単位を含み，8単位以上選択必修
	国際交流演習Ⅱ			①			
	国際交流演習Ⅲ				①		
	国際交流演習Ⅳ				①		
	国際交流研修a（海外）	2					
	国際交流研修b（海外）	2					
	国際交流研修c（海外）	2					
	国際交流研修d（海外）	2					卒業論文を履修しない場合，4年次に専門科目群Ⅰ～Ⅳの内より卒業論文に替えて4単位を修得すること
	国際交流研修e（国内）	2					
	コミュニケーションインターンシップ	3					
	国際交流インターンシップ	2					
	卒業論文				4		

⑸　専門科目群Ⅴ（教職関連）

専門の内容以外に，教育職員免許状取得などに必要な科目を配置する。本科目群の履修単位は，卒業単位に含まれないが，教職課程を履修している者のみ教科教育法を卒業単位に含めることができる。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅴ（教職関連）	教育原理		2				英語科教育法は教職課程を履修している者のみ履修することができ，かつ修得単位を卒業に必要な単位数に算入することができる。
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	特別のニーズ教育論		2				
	教育制度		2				
	教育方法論		2				
	英語科教育法Ⅰ			2			
	英語科教育法Ⅱ			2			
	英語科教育法Ⅲ			2			
	英語科教育法Ⅳ				2		
	道徳教育の理論と方法	2					
	総合的な学習の時間の指導法		2				
	特別活動論		2				
	生徒指導（進路指導の理論および方法を含む）		2				
	教育相談（カウンセリングを含む）			2			
	介護等体験			2			
	教育実習Ⅰ（事前および事後指導を含む）				3		
	教育実習Ⅱ				2		
	教職実践演習（中・高）				2		

Ⅷ　履修申請について

各年次において履修しようとする科目は，年度の初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は年間の受講計画を立て，単位を取得する意思表示をする重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために授業科目の履修ができなくなり，その結果，進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので，以下に掲げる注意事項を厳守して，誤りの無いように履修申請をすること。

⑴　履修科目の変更，追加，取消しなどが無いよう，入力をする前に授業時間割表に照らし合わせ再確認するなど，細心の注意を払うこと。なお，ポータルサイトで間違いなく登録されているかどうかを必ず確認すること。

⑵　登録科目の変更を行う場合は，それぞれの学期において登録科目の訂正期間，削除期間を設けてあるので，その期間に必ず手続きを行うこと。その際は，変更完了を確認できるよう，メール転送を設定し，必ず確認すること。

⑶　履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められない。また，修得した単位は分割することはできない。よって，授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い，修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

⑷　同一学期の同一時限に２つ以上の授業科目を履修することはできない。

⑸　一度単位を修得した授業科目は，再度履修することはできない。

⑹　Web 履修登録では，授業科目を正しく入力すること。入力上の誤りがあると申請自体が無効になることがあるので十分注意すること。また，入力の際，時間がかかるとタイムアウトになる可能性があるので，登録する講義や時間割の下書きを予め準備してから入力すること。なお，大学内に設置されている PC の台数は限られているので，Web 履修登録のために長時間占有しないこと。

⑺　履修の都合によりコマ・コード番号が必要となる場合がある。コマ・コード番号とは，時間割表に授業科目と共に記載されている番号で，その時限の授業科目に固有の番号である。

⑻　指定された期日までに履修申請を怠った場合は，学業の意思なしとみなされて，退学処分となることがあるので入力期限を厳守すること。

⑼　教職課程・副専攻・留学等，履修についての質問は，それぞれのアドヴァイザーもしくは学部事務室に相談すること。

Ⅸ　正規の履修からはずれる場合

１．再　履　修

履修申請をして単位が修得できなかった授業科目については，次年度または次学期において再び履修することができる。

2．規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は，必ず学部事務室に相談すること。ただし１年次生の規定外履修は原則として認めない。

X　試験について

1．定期試験および臨時試験

⑴　試験は定期試験と臨時試験があり，定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い，臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。

⑵　いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には，原則として当該授業科目の受験資格を失う。欠席と公欠の詳細については，本学生便覧の「学生生活のしおり授業関係」ページに記載されているので，必ず確認すること。

⑶　試験の時間割は掲示により連絡する。

⑷　授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

2．追　試　験

⑴　追試験はやむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し，原則として学期末または学年末に実施する。

⑵　追試験を希望する者は，正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。

⑶　追試験は成績表の当該科目にＴの表示がなされた場合に限って受験することができる。

なお，追試験は，履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

⑷　追試験を受験しようとする者は，「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお，追試験の受験料は１科目につき200円である。

3．再　試　験

⑴　再試験は，原則として学期末または学年末に実施する。但し，授業科目によっては再試験を行わない場合もある。

⑵　定期試験の結果，不合格（この場合成績表の当該科目にＦの表示がなされる）となった授業科目のある者は，当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合に限り，再試験を受験することができる。

なお，再試験は，履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

⑶　再試験の受験を許可された者は，「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお，再試験の受験料は１科目につき1,000円である。

4．試験に関する注意

1．通　則

⑴　試験場内では，すべて監督者の指示に従わなければならない。なお，監督者の指示に従わない者には，退場を命ずることがある。

⑵　試験場内では，筆記用具・持込みを許された資料以外のものはすべて監督者の指定する場所におかなければならない。

⑶　受験者は学生証または受験許可証を机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。

⑷　試験開始から20分を経過した後は入室，受験を認めない。

⑸　試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお，監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。

⑹　受験者は，試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。

⑺　試験の行われる学期の授業料が未納の者，授業時数の1/3以上欠席した者は，試験を受けることができない。

⑻　病気･事故その他正当な事由によって受験できなかった者は，診断書･事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて，遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

2．試験における不正行為の懲戒について

⑴　不正行為をした者は，学則第68条により罰せられ，更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。

　また，不正行為を行った学期に履修している全ての科目の単位を認定しない場合がある。

⑵　不正行為のあった者の懲戒処分については，教授会の審議を経て，学長が決定する。

⑶　学長は保証人を召喚して懲戒処分について通知すると共に学内にこれを公示する。

3．試験における不正行為とは

⑴　他の人から答えを教わることや，教えること等，いわゆるカンニング及びその手助けをすること。

⑵　本人以外の名前・学籍番号で受験すること。

⑶　許可されていないものを使用すること。

⑷「解答はじめ」の前，及び「解答おわり」の後に，試験監督の指示に従わず，解答を続けること。

⑸　その他，試験監督の指示に従わないこと。

⑹　論文・レポート等において，剽窃行為をすること。

※剽窃行為：引用の形式をとらず，著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり，著作権法に違反する行為。

Ⅺ　授業科目の単位認定と進級及び留年

1．単位認定

⑴　各科目の成績は，シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。

⑵　100点を満点とし，60点以上をもって単位修得（合格）とする。

その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

⑶　再試験における評価は60点を合格とし，79点を上限とする。

⑷　再試験における成績評価の最高点は，定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

2．進級及び留年

⑴　2～4年次への進級については，指定された進級要件を満たした場合に可能となる。なお，指定された進級条件を満たさない場合（165ページ参照）においても，進級を認める場合がある。

⑵　4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

Ⅻ　成績発表

⑴　成績発表では，アドヴァイザーまたは演習担当教員より本人に成績表を交付するので，学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際，学生証を提示すること。

なお，指定された期日以外には交付しない。

⑵　成績の評価は次の記号で表わし，60点以上をもって単位修得（合格）とする。

（合　格）	（正規試験不合格）	（追・再試験不合格）
S：100～90点	F：59点以下（再試験受験可）	D：59点以下
A：89～80点	T：追試験受験可	E：未受験
B：79～70点	Z：追・再試験の受験資格なし 評価不能	
C：69～60点		

⑶　成績表には，学習成果を総合的に推し量る指標GPA（Grade Point Average）を表記している。

詳細については，Web履修登録画面にて確認すること。

⑷　成績についての疑問，質問等は成績表交付日のみ受け付けるので，学部事務室に問合わせること。

⑸　事故，病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は，代理人を定め，成績表の交付を受けること。その場合，代理人は学生証および委任状を持参すること。